

施設づくり、まちづくりに
参加しませんか

まちと公共施設の未来をともに創造する
小千谷リビングラボ

第8回 「at！おぢや」

未来の体験を想像しよう！

開催報告

概要

この事業では、施設の整備段階から、市民のみなさんと行政が新しい施設の活用方法や地域の価値・課題などについてともに考えていく場として小千谷リビングラボ「at！おぢや」を立ち上げ、継続的な活動を通じてオープン後の施設活用と中心市街地の活性化につなげていくことを目指しています。

第8回では、設計者の(株)平田晃久建築設計事務所（東京都）からの実施内容の共有、後半のワークでは、ここまで実施してきたことを運営側・参加者側も含めてともに振り返り、もっとat！おぢやをよりよくしていくために一緒に考える対話と、新潟工科大生（柏崎市）との連携プログラムを具体化するための作戦会議を行いました。

実施日時 : 令和4年5月22日（日）13時30分～16時30分

実施会場 : 総合産業会館サンプラザ 3階大ホール

参加者 : 70名

- ・一般参加者（50名）
- ・小千谷市役所職員
- ・(株)平田晃久建築設計事務所 ※設計者
- ・アカデミック・リソース・ガイド(株) (arg) ※施設運営準備支援業務受託者

配付資料 : ・第8回小千谷リビングラボ「at！おぢや」「まちと公共施設の未来をともに創造する」
・図書館「部活」の呼びかけ

1. 事業についての説明：小千谷市 (13:30~13:40)



みんなの居場所

▼

多様な人たちの自由な過ごし方が
共存する空間

小千谷市職員から、図書館等複合施設整備事業の概要や、これまでの経緯、施設やこの事業全体で目指している方向性を、参加者のみなさんに共有しました。

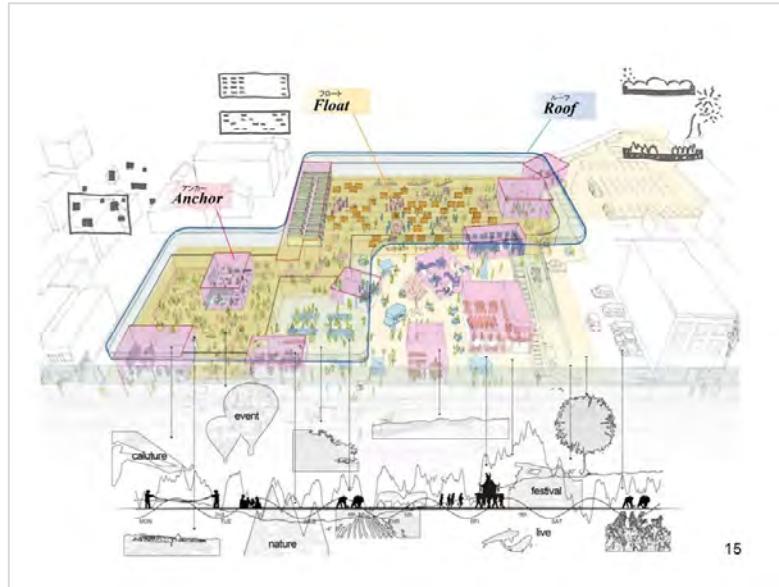
「共創」の場

▼

小千谷リビングラボ「at! おぢや」



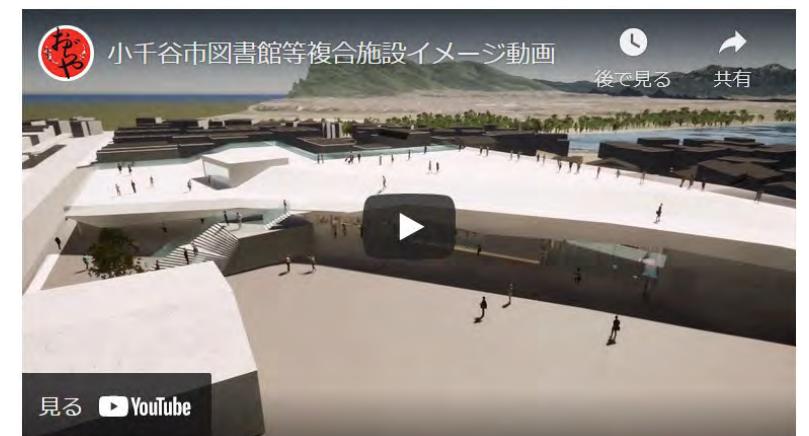
2. 実施設計検討内容の進捗報告：(株)平田晃久建築設計事務所 (13:40~14:00)



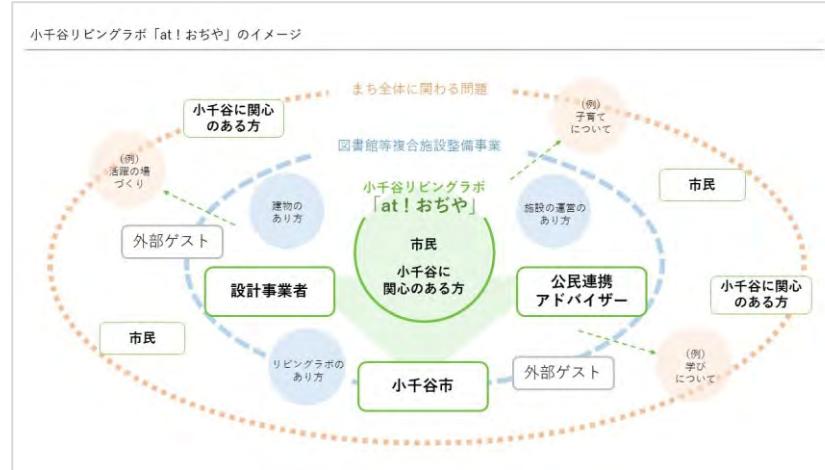
設計者の(株)平田晃久建築設計事務所（東京都）から、これまでの検討のプロセスや、最新の検討内容について、施設空間のイメージ動画とともに共有を行いました。



当日会場で披露した図書館等複合施設のイメージ動画は、YouTube「小千谷市公式チャンネル」からご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/watch?v=-b9-EpLZw9Q>



3. リビングラボについて・オリエンテーション：arg (14:00~14:20)



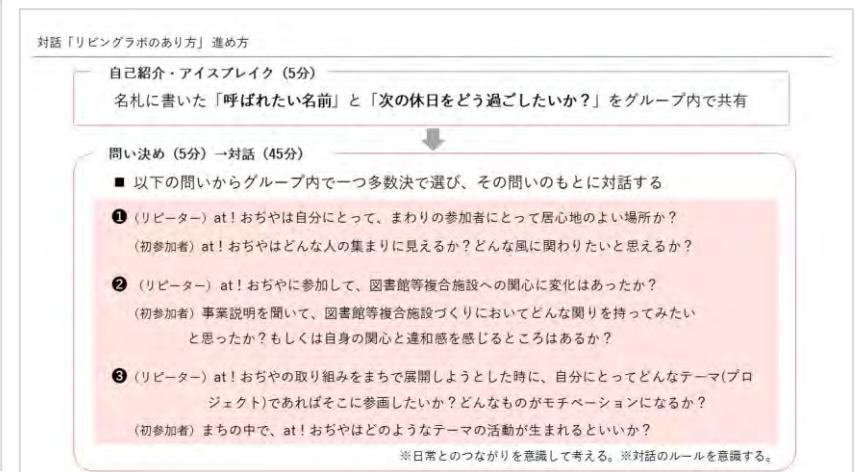
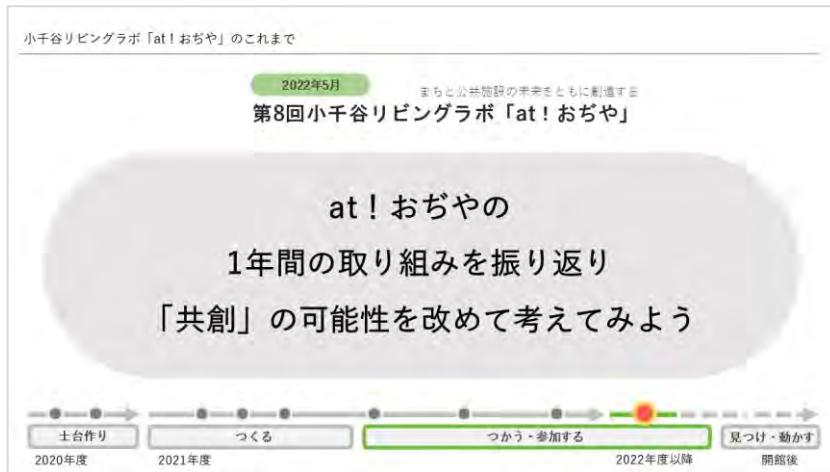
施設運営準備支援業務受託者のアカデミック・リソース・ガイド(株) (arg) から、

小千谷リビングラボ「at!おぢや」の立ち上げの目的、

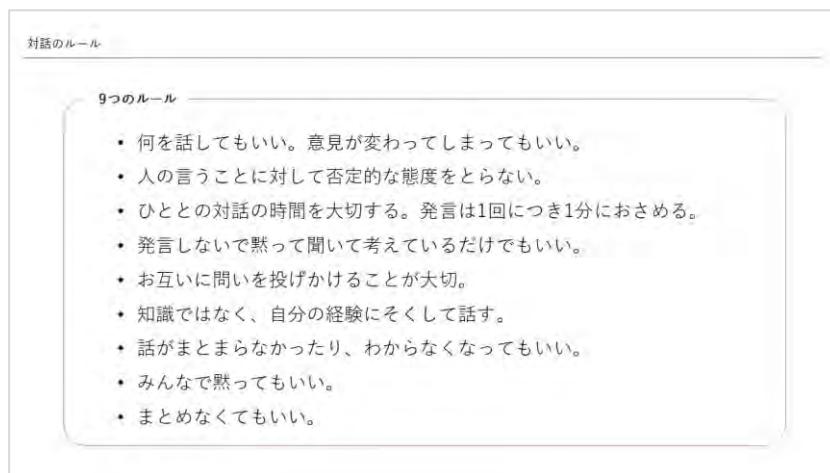
これまでの開催内容や取り組みについて振り返りながら、目指す方向性についての共有を行いました。



4. 対話「リビングラボのあり方」 (14:20~15:25)



ここまで実施してきたことを運営側・参加者側も含めてともに振り返り、
もっとat!おぢやをよりよくしていくために、
「at!おぢやの1年間の取り組みを振り返り「共創」の可能性を改めて考えてみよう」
というテーマで、6グループに分かれて対話を行いました。



at！おぢやの1年間の取り組みを振り返り、「共創」の可能性を改めて考えてみよう

問い：③ ・at！おぢやの取り組みをまちで展開しようとした時に、

自分にとってどんなテーマ（プロジェクト）であればそこに参画したいか？どんなものがモチベーションになるか？

・まちの中で、at！おぢやはどのようなテーマの活動が生まれるといいか？

ファシリテーターコメント

まちの中での活動として、自分たちで作った本棚を駅に置き、まちの魅力を伝えたい、小千谷縮のリメイクをして小千谷を発信したい、全ての世代が交わることのできるおぢやまつりに関するイベントをしたいなど、様々な意見がありました。図書館等複合施設が小千谷文化の発信基地となり、そこから活動がまちの中へ広がっていければよいというのが共通の意見でした。at!おぢやで対話を重ね、共に創っていくことで、この施設が愛着ある施設になっていくことをとても楽しみに感じました。

ファシリテーター：高野（生涯学習課）

参加者のコメント ※●：学生（大学生以下）、●：大人

- 小千谷縮を民主化し、まちを彩る
- 小千谷の文化・歴史（祭り）がすべてわかる施設
- 行政と民間の融合施設
- 小千谷の文化の再発見・発信・体験の場
- 駅の図書館、手作りの本棚をつくり活用できれば
- 図書館を中心とした活動を広くやっていけるような
- 駅のホームに図書館がある
- 人を呼ぶ小千谷市へ
- 市内にとどまらず市外にも小千谷の魅力を発信する
- 現在単体でPRしているものを連携して発信できるようにする
- 文化遺産・名産品を調べる
- 小千谷縮でまちに活気を
- 小千谷縮は貴重で高価な印象
- at！おぢや、小千谷市の未来を考える母体とする
- 行政と商業の一体化
- 小千谷文化の発信基地
- 名産品のことを調べて発信する
- 商工会議所×図書館
- 成果発表の場に！（園児～年配の方まで部活動、絵画、写真、書道etc）
- 老若男女問わないイベント（テーマ）
- イベントを詳しく知る
- プロジェクトのテーマはより明確であるべき（モチベーションにもつながる）
- 市民び名物開発
- 人を結ぶ目的の明確化と内容の精進
- 自分たちで検索したものは愛着がわく
- まちや個人の魅力を伝える本
- マッチングができていない
- 自分の興味関心があるものが参画につながる

at！おぢやの1年間の取り組みを振り返り、「共創」の可能性を改めて考えてみよう

問い：③ ・at！おぢやの取り組みをまちで展開しようとした時に、

自分にとってどんなテーマ（プロジェクト）であればそこに参画したいか？どんなものがモチベーションになるか？

・まちの中で、at！おぢやはどのようなテーマの活動が生まれるといいか？

ファシリテーターコメント

まちが明るくなるようなテーマの活動が望ましいという所から、プロジェクトの一例として「花を植えてまちを明るくする」という活動が出ました。どのようなテーマであれ、年代や立場を超えて「こうだったら良いのでは」と話せる場所が必要であること。また、話せる場所も活動自体も、気軽に参加できる形で負担が少ない、あるいはメリットがあることが持続可能な活動には必要ではないかという話が印象的でした。現実を見据えながらの意見が多く、少しずつですが着実にまち全体が明るくなる様子を思い浮かべることができました。

ファシリテーター：町田（生涯学習課）

参加者のコメント ※●：学生（大学生以下）、●：大人

- 花を植えるイベント
- 世代を超えた考えを知ることができる
- 年代を超えて（どんなテーマにしる）話せるところ
- 好きな時に好きなように参加できるとよい
- 敷居の低い印象を
- 集まる場所参加型
- 気軽に参加できるもの
- 活動する意味や足を運ぶ意義が感じられるように
- シャッター街の活用
- シャッター街とはいえ住宅
- できる家～シャッターを開ける（開放感）
- 参加が大変そうだと、参加しにくくなるかも…
- 花を育てるならボランティアによる世話が必要
- 植栽でまちが明るくなるもの
- 子どもを中心としたイベント
- “子ども”の活動は人が多く動く
- 子どもと一緒に参加できるもの
- 地元の子供達との花植えの活動
- 商店街を巻き込むなら商店街側のメリットも
- 新しい建物と周辺の関わり
- 周辺のまちづくりも
- 周辺の住民の協力を
- at！おぢやからまわりを明るくする
- at！おぢやでまちの一部ではなく、まち全体を活性化
- 市民のニーズそれぞれ。継続的に会議を続けて欲しい。

at！おぢやの1年間の取り組みを振り返り、「共創」の可能性を改めて考えてみよう

問い：③ ・at！おぢやの取り組みをまちで展開しようとした時に、

自分にとってどんなテーマ（プロジェクト）であればそこに参画したいか？どんなものがモチベーションになるか？

・まちの中で、at！おぢやはどのようなテーマの活動が生まれるといいか？

ファシリテーターコメント

これまで積み重ねてきたat!おぢやの話し合いの中からも現段階の設計に生かされている内容があり、そういうことが今後の主体的な活動につながるモチベーションになっていくのではないかという指摘が印象的でした。また、「何でもある施設」を目指すのではなく、足りないものを小千谷のまちに探しに行きたいと思わせる施設にして、足りないと感じさせる部分をat!おぢやのメンバーが担っていけばよいという意見もありました。施設全体のあり方と人々のつながりの中で、個々のやりがいを感じられる活動をつくっていくことが肝となっていくのだと感じました。

ファシリテーター：小池（生涯学習課）

参加者のコメント ※●：学生（大学生以下）、●：大人

● 市外へどのように発信・宣伝していくか検討していく必要がある

● 図書館を観光の拠点にする

● 小さな観光

● 小千谷のいいところをもっと知ることができる。機能・役割

● （質問）小千谷市にないもの、欲しいもの

● ワンストップで用が足りるような便利な施設に

● 本町を市の中心として位置させるなら、ハブ的な役割をもったマルチに開けた施設になって欲しい

● 小千谷のよいところをもっと知りたい（市外～）観光案内

● 24時間openのカフェ（居場所）（担当持ちまわり）→ゲートキーパー的役割

● テーマに応じた趣味の観光mapをみんなでつくる場

● 自分がやりたいこと・希望が実現できるということがモチベーションになる

● モチベーションは、この市民参画がただのパフォーマンスで終わることなく施設完成後も繋がっていくこと

● 今まで話した希望目標が実現できるか？不足分をこの回で継続可能か？

● 新施設の有効な運用を如何にするかが問題である

● at！おぢやを継続した図書館+α活性化委員会

● 施設でかなわなかったことをまちのアンカーで展開する

● 施設で足りない要素をまちの中で補完していく→施設からのアクセスはどうする？

● オープンした後に足りないと感じたとき、まちにアンカーを広げる

● 新しい施設⇒できてみたらこれがないあれが足りない⇒じゃあ自分たちで外にアンカーをつくっちゃおう！

● 施設にすべての機能があるわけではなく→まちへの回遊をうながすこの規模が大切

at！おぢやの1年間の取り組みを振り返り、「共創」の可能性を改めて考えてみよう

問い：② ・at！おぢやに参加して、図書館等複合施設への関心に変化はあったか？

・事業説明を聞いて、図書館等複合施設づくりにおいてどんな関りを持ってみたいもしくは自身の関心と違和感を感じるところはあるか？

ファシリテーターコメント

まず、メンバーそれぞれの「図書館」や広い意味での「居心地」の良さの話、小千谷という地域に対しての視点（課題や魅力）の話になり、それぞれが感じているものの多様さが対話の中からも実感されました。また、at！おぢやへの参加から、施設への認識や、自身の意識の変化についてを話してくださる方もおり、回を重ねる中で、他の人の考えを聞き、自分自身の考え方が更新されていく対話の意義を改めて感じる内容になりました。

ファシリテーター：有尾 (arg)

参加者のコメント ※●：学生（大学生以下）、●：大人

- 居心地のよい空間ってみんな違うんだな
- 図書館って“静か”なの？
- 他地域の人が、人の目を気にしなくていい場所
- 落ち着くふるさとの風景（越後三山）
- それぞれの居心地のいい空間が違う
- 雪の問題
- 「居心地のよい空間」←人に寄って違う
- 青空は貴重
- 雪のイメージをプラスに…
- 新しい図書館を市外の人たちにも情報を発信することを考える
- 世代を超えた人たちが集まり、利用できるところに
- 居心地のよいまちとは？
- 冬の過ごし方
- みんなの居場所であるが故に知り合いと会う→一人になれる空間になる…？
- 居心地のよさは人によって全く違う
- 人それぞれの心地よさが違う。一つの建物で、それぞれの居心地いい使い方ができたらいい。

at！おぢやの1年間の取り組みを振り返り、「共創」の可能性を改めて考えてみよう

- 問い：② ・at！おぢやに参加して、図書館等複合施設への関心に変化はあったか？
- ・事業説明を聞いて、図書館等複合施設づくりにおいてどんな関りを持ってみたいもしくは自身の関心と違和感を感じるころはあるか？

ファシリテーターコメント

*参加経験者は、at!おぢやでの対話が、きめ細かく具体的であること（粒度が高い）を実感された様子。暮らしの体験に立脚した議論の大切さを感じる。

*施設への関わりしろについては、「目的がなくともいられること」「何かと関わることへの期待」を持つ参加者が多い。アンカー内や書架空間のみならずその間の空間のデザインが重要ではないだろうか？また、「つなぐ人」が存在するこの重要性についての指摘は今後さらに実装に向けて考えていかねばならないと考える。

ファシリテーター：平賀

参加者のコメント ※●：学生（大学生以下）、●：大人

- 刈羽村図書館「ラピカ」体育館、プール
- 明確な目的がなくてもそこに行けば何かが始まる感
- 話の粒度・細かさがすごいな
- ラピカは図書館だった
- まちづくりの種
- 高校生が行ける・話せる場を
- 内外、拡がり、五感を使う、アンテナ
- つなげる人
- つなぐ人
- いつでもだれでも利用できる図書館
- 気軽に集まるきっかけ・場
- ただ話す“会”とか
- ザ・図書館は×
- やりたいことははっきりしているわけではない
- いろいろあるんだ、考えがあるんだ

at！おぢやの1年間の取り組みを振り返り、「共創」の可能性を改めて考えてみよう

問い：② ・at！おぢやに参加して、図書館等複合施設への関心に変化はあったか？

・事業説明を聞いて、図書館等複合施設づくりにおいてどんな関りを持ってみたいもしくは自身の関心と違和感を感じるころはあるか？

ファシリテーターコメント

高校生から大人まで小千谷のみなさんが、このように話すことができる場、交流できる場を求めていたのだということを感じました。そして、at！おぢやが、世代や属性を超えたコミュニケーションが行われる貴重な機会にもなっています。at！おぢやでの体験によって、「図書館」のイメージや、新しい施設への期待が、大きく広がっていると感じました。ここに参加しているみなさんが、at！おぢやでの経験を活かして、協働することで、小千谷にしかできない多様な活動の場がつくってほしいと思います！

ファシリテーター：李 (arg)

参加者のコメント ※●：学生（大学生以下）、●：大人

- 今まで無かった交流がありそう
- もうだいたい語りつくしたのではないのでしょうか。
- 工夫次第でいろいろなことができる可能性を感じるようになった
- 時間や場所に関係なく参加できる。オンラインとリアルの併用
- どんな施設・会議なのかイメージがわかると最初の歩が踏み出しやすくなる。
- 「図書館」なのに、多様な使い方ができ、用途を限定しない施設なのが素晴らしい
- フランクな一歩
- もっと早くというまちの声も多い
- “手段”としての図書館が、行ってみたら何かあるかも、という可能性を秘めた“目的地”になった
- 高校生の意見がとても新鮮でした。若返った気分
- できるorできない⇒どうしたら実現するのか
- 「図書館」としてだけでなく交流の場所にもなれるところに関心を持った
- 関心があってもまじめすぎて入りにくさを感じたが、参加してみてもっと参加しやすさが伝わるという感じ
- 冬場の活用方法を考えていく。雪を眺める。みんなが集まる、暖かい場所だから。
- いろいろな世代が四季を通して楽しめる施設になって欲しい
- 図書館に昔から行かないほうだが、イベントなどでその壁が減ったと感じた
- 図書館そのものについても今後話していきたい
- もっと早く着工をスタートしてほしい
- 西脇順三郎について大事だと思う

5. 対話「新潟工科大生との連携プログラムブレスト」 (15:35~16:10)



新潟工科大学との連携プログラムのなかで新潟工科大生によって企画された4つのプロジェクトについて
どうすれば小千谷市のみなさんとともに取組みながら実現することができるか、
それぞれ気になるプロジェクトに集まっていたいただき、作戦会議の対話を行いました。



対話「新潟工科大生との連携プログラムブレスト」

プロジェクト **A** : おぢや本作りプロジェクト

プロジェクト名 おぢや本づくりプロジェクト

新潟工科大生との連携プログラムブレスト

■ プロジェクトの趣旨
気軽に本を制作できる
人との出会いが生まれる

■ 目標・目的
制作する場所をつくる
交流する機会をつくる

■ スタートからのスケジュールイメージ

2022.1月 2月 2023.12月

誰が ▶ 工科大生

何を ▶ 第7回at! おぢやでのプレゼンテーション

■ 場所

■ その他

図書館は、(本)を制作する場所をつくる。いよいよ7月1日、おぢやの本作りプロジェクト

R6 6月オープンに合わせて「おぢやの軌跡」をみんなで作りたい

まちの人の好きなおもちゃも本に集める

高校生など若い世代と一緒に作りたい。

at! 本作り

小千谷 極楽寺さん 極楽市も参加

プロジェクト企画者（新潟工科大生）コメント

本プロジェクトは、関係者だけでは進めることが難しいので、次回のat! おぢやでは、プロジェクトに参加していただける方々とコミュニティをつくりたいです。

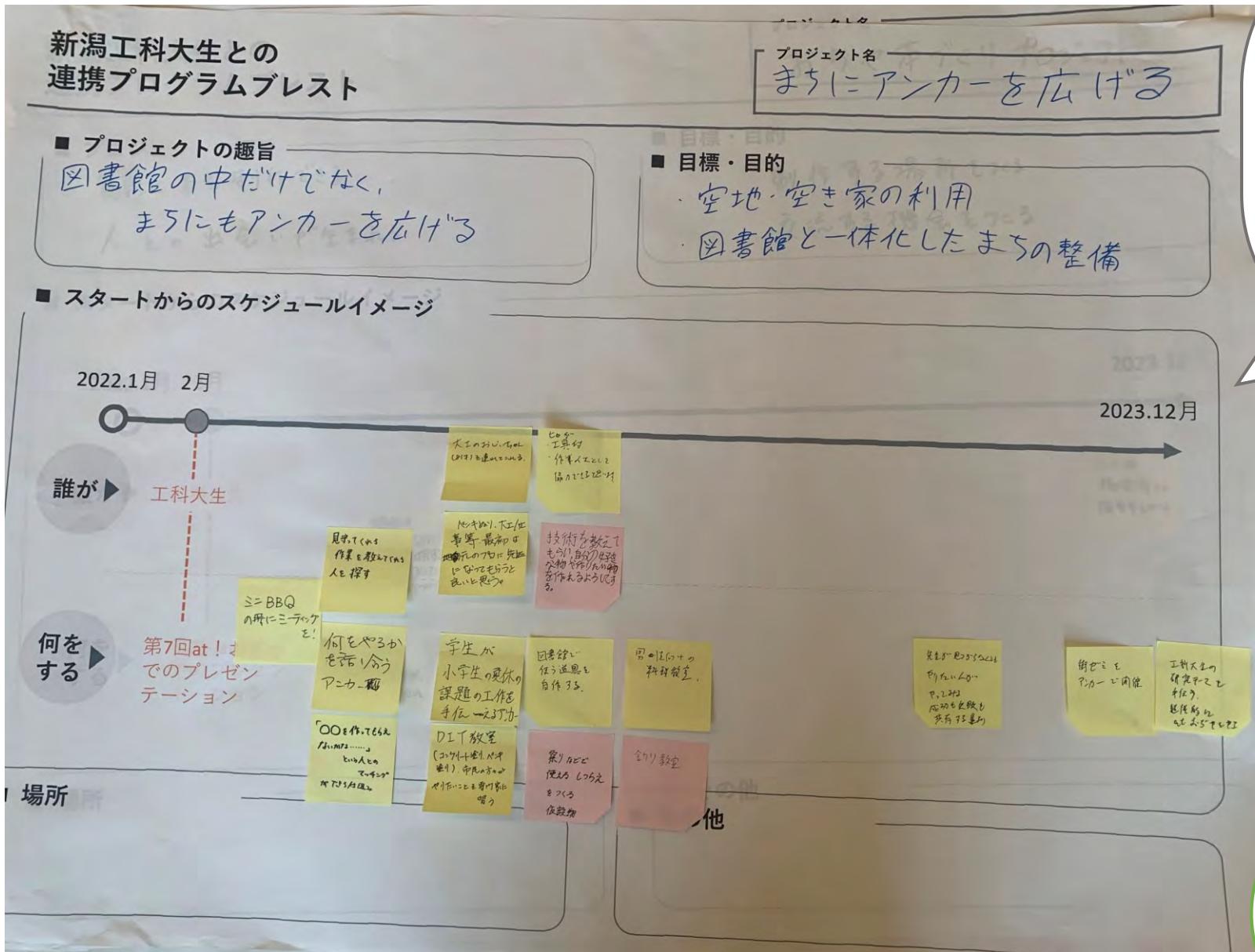
阿達、勝海

このテーマを
実現・実践するためには、
職員のみなさんは
何ができますか？何をしますか？

- ・参加者や協力者の募集
- ・本の制作過程の整理
- ・完成した本を用いた交流の場の調整

対話「新潟工科大生との連携プログラムブレスト」

プロジェクト **D** : まちにアンカーを広げる



プロジェクト企画者（新潟工科大生）コメント

小千谷市民の方から、具体的な提案が出て、嬉しかったです。二人で考えるより、アイデアがたくさんで良かったです。小千谷市民の方々のまちづくりへの熱意が伝わってきました。プロジェクト実現に向けて、情報共有の手段を確立できて嬉しかったです。

蕪木、小関



このテーマを
実現・実践するためには、
職員のみなさんは
何ができますか？何をしますか？



- ・ 作業を指導できる人について情報収集
- ・ 作ってほしい人と作りたい人の橋渡し
- ・ 新施設で成果品を展示(活用)、PR